

Welcome to our school!(島根大学との連携事業)

～7人の留学生と米子市立湊山中学校3年生との交流授業～

西部教育局
お役立ち情報
令和8年2月号

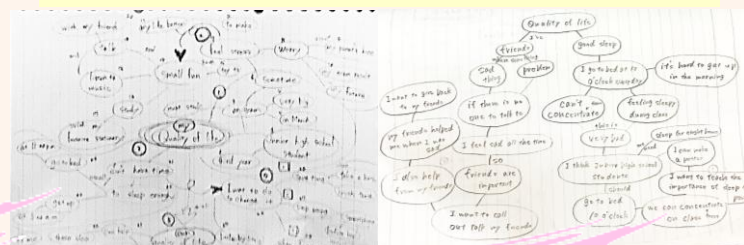
生徒と留学生との交流プログラム(授業・給食・掃除・終学活)

12月4日(木)の実施プログラム

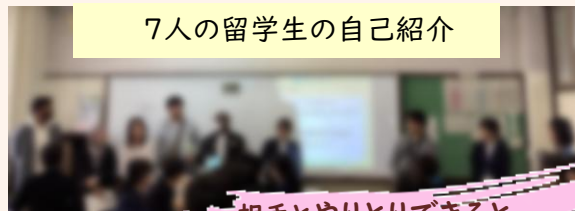
9:30 留学生学校着
9:50～12:25 3年生との交流授業
12:25～13:20 給食・昼休憩交流
13:25～14:15 3年生との交流授業(公開)
14:25～15:50 教員対象研修会

中学校3年生教科書Program7「Robots Can Improve Quality of Life」の単元で、「Our Quality of Life」を考え、留学生と意見交流をしました。下の写真は、自分の考えをマッピングし、それをもとに留学生と語り合う生徒たちの様子です。

自分の考えをマッピングし、やりとりの準備をする



7人の留学生の自己紹介



相手とやりとりできると
とっても嬉しい!

交流の様子



伝わった時は、
とっても楽しい!

これまで学習してきた内容を使って、生徒は留学生と意見交流に挑戦しました!

【生徒の振り返り一部抜粋】

留学生との交流を通して、自分が今まで学んだことを活かしているなと感じた。日本の人と英語で話すということはよくあったが、他国の方とこういった場で話すということは、今まで経験したことがなかったので、この授業を通して良い経験ができた。将来、英語はとても大切だと思うので、これからもしっかりと学習したい。

他国の方と「Our Quality of Life」について話すことで、国境を越えても思っていることはほとんど同じだなと思った。貧困が問題となっている地域に支援することや、お金を大事にすることなど、今の行動がこれからにつながると思った。国が違ってもお互いの意見を尊重し、積極的に英語で話すことで考えが深まると思った。

留学生と交流することができ、とても良い体験をすることができた。相手の言葉が理解できず、返答に困ったこともあったが、意志疎通をすることができた。今まで知らなかった文化についても知ることができ、コミュニケーション能力も知識も両方強化することができるよい授業だったと感じた。

英語を聞き取るのが難しかったけれど、伝えようとしていることは分かったし、英語で何と言うか分からないときがあっても何とか伝えられるということが分かった。

【授業者:金森 彩子 教諭 協力:米子市立湊山中学校】

教員研修「授業づくりにおける『読み・書き』で困り感のある子どもへの手立てと支援の工夫」

公開授業後に中学校英語科の先生方を対象とした研修会をしました。島根大学大学院教育学研究科特任教授大谷みどり先生に英語科の授業づくりにおける手立てや支援の工夫について事例をもとに御講義いただきました。

研究会の様子



【参加者の先生方の振り返りより一部抜粋】

生徒にとって、島根大学の留学生との交流を通して、日頃の英語学習の成果を試す良い機会だと思った。今回のような取組を公開していただくことで、自校の他の教員、他校の教員にとって、とても刺激になるものだったと思う。ぜひ、このような機会を継続して行い、西部地区、または、県全体の授業力向上につながればよいと思う。

書くことに困り感を持ち、英語嫌いになる生徒をこれまでたくさん見てきた。少しでも生徒の困り感に寄り添い、支援をすることで、自己表現する楽しさ喜びが感じられる授業づくりをしていきたいと思う。